

# 帯広にて研修会を行いました

帯広支会 東 洋

6月19日（日）帯広駅前のとちプラザにて「重度障害者のためのコミュニケーション支援研修会@帯広」と銘打って、三菱財団様から助成を頂き、日本 ALS 協会北海道支部の主催で講演会を行いました。

帯広で一般向けに講演会を行うのは平成26年8月からですので約2年ぶりのことです。支会設立以来2度目で、今回は重度障害者、特にALSの方のコミュニケーション方法について特化した内容にまとめ、支援者の方を重点的にお誘いしました。これにより、関わる人を広げ、大きな輪で患者支援を行えます。また、専門職の方々は職務で異動があるので、数年に一度は患者会から現況をお伝えする機会を設けたいという意図もありました。

研修会の内容ですが、拠点病院の神経内科医である保前（ほうぜん）先生より「ALSについて」と題して医療講演を行っていただきました。2年前にも講演をさせていただいていますが、今回は病理から新薬、療養環境まで幅広くトレンドを盛り込んだ内容で、この日の内容をすべて網羅していると言っても過言ではないほど充実したものでした。前回講演からすごくボリュームが増えており、2年間でこれほど研究や療養環境が進化しているのだと改めて実感させられました。



市内在住の患者さんにご都合がつかずお越しいただけませんでしたでしたが、代わりに文章と写真をお寄せくださり、代読にてその内容を会場へ紹介させていただきました。次に病初期、とりわけ診断直後から一貫してお付き合いいただき、まさに支援者代表として保健師さんよりその役割と患者さんとの関わりを紹介していただきました。

その後、今回のテーマであるコミュニケーションについて道内で永く関わりを持たれている iCare ほっかいどうの活動を披露していただきました。

本に載っている ALS という病気の説明では「先がない」というイメージをとかく持ってしまいがちですが、深瀬支部長と北見の渡部さんとの口文字での会話はどっという笑いを会場から何度も誘ったり、機器展示や事例紹介のパネル展示も含めて、多様な支援の方法を知っていただくことができました。

回収したアンケートからも、意図したとおりの手応えがあったことを感じています。

支援方法が見つからない、どこへ導けば良いのかの、支援者として何ができるのかなど、そんな不安、疑問を払拭するに十分な内容であったと会場の雰囲気からも察することができました。

道内より駆け付けてくれた車椅子の当事者の存在も大きく、支援があれば社会参加に問題がないことを来場された方々に知っていただけたかと思えます。次回はぜひ地元の患者さんも参加する講演会にしたいと思います。

